



詫間子ども宣言

昨日の全校集会で、『詫間子ども宣言』について、次のような話をしました。

2年前、詫間町内の保育所、幼稚園、小学校、中学校の校長(園長)先生方が集まって、詫間町の子どもにどんな子どもになってほしいかを話し合いました。そして、保育所から中学校まで、約3歳から15歳まで同じ願いや目標を持って教育するための方針を決めました。それが『詫間子ども宣言』です。

自分を大切に、人に優しくします

「自分をはじめ、命あるものを大切にする」「周りの人に対して優しく、親切にする」という心優しい子どもになってほしいという願いを込めています。

ありがとう、ごめんなさいを言います

「おかげさまの気持ちを持つ」「感謝の心を忘れない」ことです。単なるあいさつではなく、声に出すことに少し抵抗のある「ありがとう」「ごめんなさい」の言葉が言える子どもになってほしいという願いです。

我慢をします

「甘さを抑え、わがままをしない」「失敗体験や困難体験を大切にする」ということです。諦めずに最後までやり抜く子どもになってほしいという願いです。

嘘をついたり、人の嫌がることをしません

「自分さえよければという考えで行動しない」「嘘をついたり、人の嫌がることをしない」ということです。素直で、友達と仲良くできる子どもになってほしいという願いです。

夢に向かってがんばります

「目標実現のため、くじけず努力をする」「ボランティアなど社会に貢献する」ということです。明るく未来志向ができる子どもになってほしいという願いです。

当たり前のことを当たり前になります

「自分勝手はやめ、社会生活のルールを守る」「やりたくても、やってはいけないことはしない。やりたくなくても、しなければいけないことをきちんとする」ということです。

子どもの立場から言うと、「これらのことが、抵抗なく素直にできる子どもになりましょう」。大人の立場から言うと、「そんなことが、抵抗なく素直にできる子どもに育てましょう」となります。子どもである皆さんは子どもの側から努力し、先生方は大人の側から努力します。これが『詫間子ども宣言』に込められた願いです。

なお、『詫間子ども宣言』については、昨年度の浦島伝説第6号(6/8発行)、第44号(3/23発行)でも紹介しています。詫間中HPからもご覧になれます。



真剣に話を聞く生徒たち

学習状況調査

平成14年度から香川県のすべての中学生に対して、1年生は国語・算数・理科、2年生は数学・理科・英語、3年生は理科・英語について、基礎的・基本的な内容がどれだけ理解できているかを調査し、今後の学習に役立てようという目的で実施されているものです。(昨年度からは、全国学力・学習状況調査との重なりを考慮して、3年生の数学は実施されていません)。1教科50分のテスト形式で行われますが、得点や順番はつきません。しかし、生徒一人一人について、問題ごとの正答率が出されるため、自分の苦手なところがわかり、今後の学習の仕方などについて考えることができます。また、教師サイドからも、自分自身の指導を振り返ったり、授業の在り方を考えたりするきっかけになります。併せて、生徒質問紙調査を実施し、家庭での生活や学習の様子、携帯電話やゲームに関する実態なども把握できるようになっています。集計・分析等にかかり時間がかかりますが、結果が次次第お返しいたします。

なお、3年生については、4月20日(火)に、全国学力・学習状況調査(国語・数学)を実施します。